

## 令和7年度 第1回長野市観光振興審議会 会議録

日 時 令和7年10月23日(木) 午前10時から正午まで  
場 所 長野市役所会議室202(長野市役所 第二庁舎 10階)  
出席者 委員(13人中11人出席)  
事務局8人  
観光振興計画進捗管理SCOP1人

### 1 観光文化部長挨拶

令和6年の訪日外国人旅行者数は、3,687万人、旅行消費額も8.1兆円といずれも過去最高を記録し、本年9月までの累計では過去最速で3,000万人を記録する結果となった。

長野市においても、令和6年度の外国人宿泊者数が37万人と前年度の約2倍に増加した。これは長野市の人口とほぼ同じ数字であるが、現状日本全体の外国人宿泊者数は約7割が三大都市圏に集中している。インバウンドを含む「観光客に選ばれる観光地」を目指し、観光コンテンツの充実や効果的なプロモーションを展開する持続可能な観光振興こそが必要と考える。令和9年に開催される善光寺御開帳を契機に「観光都市ながの」として選ばれる地域を目指し、本年5月に「長野エリア観光戦略研究委員会」を立ち上げ、観光コンテンツの開発や効果的なプロモーションなどに取り組んでいるところである。

現行の観光振興計画が令和8年度までとなり、令和9年度から始まる次期観光振興計画の策定に向け、今年度は基礎調査や分析を行い、新たな計画を策定する予定である。

本日は、委員それぞれ専門の立場からの忌憚のない意見を頂戴したい。

### 2 会長挨拶

近年、観光を取り巻く情勢は大きく変化し、報道にもあるとおり訪日外国人の大幅な増加傾向が続いている。長野市においても、この機を逃すことなく、観光産業のさらなる発展につなげていくことが重要である。

令和9年には、善光寺御開帳も開催されることから官民一体となった取り組みを通じて、観光客が「訪れたい」と思える魅力的な施策の展開が必要となる。

今後も、委員の皆様と長野市が国内外から選ばれる観光地となり、観光を通じて地域の活性化が図られるよう、努めたいと考えている。

### 3 議 事(議長：笠原会長)

- (1) 令和6年度長野市観光振興計画の指標達成状況について 【資料1】
- (2) 観光施策の最近の取組状況について 【資料2】
  - ・長野エリア観光戦略研究委員会 【資料2-1】
  - ・善光寺実践プロジェクト 【資料2-2-(1)】

- ・戸隠飯綱実践プロジェクト 【資料 2-2-(2)】
- ・松代実践プロジェクト 【資料 2-2-(3)】
- ・中山間実践プロジェクト 【資料 2-2-(4)】
- ・インバウンド推進 【資料 2-3】

(3) 次期長野市観光振興計画の策定について 【資料 3】

#### 4 質疑応答、意見など

##### (1) 令和 6 年度長野市観光振興計画の指標達成状況について

A 委員：最近インバウンドの影響か宿泊費が高騰している。観光客からもホテルが高いとの声が多い。ビジネスで宿泊をする人の中には経費削減で、ホテルでなく漫画喫茶を利用する人もいると聞く。この宿泊費の急激な伸びは、利用者増でなく、利用料金の高騰が反映されていると思う。リピート率の降下がチェックポイントで、ホテル代の上昇に伴う国内観光客の利用減少が懸念材料ではないか。重要なのは、この数字を読み、次に何をすべきかである。

B 委員：長野市でも 10,000 円以下で泊まることは難しい状況。特に長野駅前が高く、少しでも安いホテルを探し、駅から離れていく傾向にある。全体的に底上げされており、料金に関し不満に思う点が多いのは事実。それが観光的な魅力度、リピート率に影響しているなら残念である。

宿泊業界はコロナ禍、大きな負債も抱えたが、ようやく一息つけると期待したところで、現在の物価高騰である。低価格設定の努力はしているが、まだまだ微力である。本当にこれからが正念場で、適正な利益とバランスでの経営が求められている。

C 委員：確かに駅前ホテルの宿泊料金は、かなり上がっている。ただ、首都圏へ出張の宿泊費も、今までは 13,000 円が目処だったが、20,000 円でも経費として認めざるを得ない。要因は例外なく、各地でホテルが値上がりしているからである。ホテルによると同じ部屋でも日程によって 3 倍値段が違う。そこは需要と供給のバランスで仕方がないと受け入れるしかないと思っている。

K 委員：地域の最低賃金も 1,000 円を超えた。人件費として、1 人当たりの賃金を上げないと、採用ができない事情もある。例えば、開業したイオンの時給が 1,500 円前後になると、他でも雇用確保のためには、賃金を同じ額まで上げなければ人が集まらない。中小企業でも、人件費は重要で、日本人外国人問わず雇う側が選ばれることになっている。京都の良いホテルは 1 泊、25,000 円から、今は、40,000 円台になっている。人件費も含め、経費を宿泊費に反映すると、料金が上がるのは仕方がないこととなる。

A 委員：インバウンドが注目され、それが高騰の要因であるのは全国的なことであり、長野市に限ったことではない。そんな中、市内のゲストハウスは今も価格を据え置き、ビジネスホテル利用客の受け皿になっている。一方で今まで低予算旅行をしていた若者は、どこも宿泊費が高いことが理由で減少している。若い人達に長野市をもっと知

って欲しい、もっと魅力を伝えたいと考えると、比較的利用しやすいゲストハウスを拡充するような施策を行政として取り組むことを提案したい。

K委員：市街地でインバウンドの方を見かけることは多くなった。市として何ができるかは難しいが、色々と選択肢が増えることはいいことである。

D委員：資料によると、経済波及額、観光消費額は、かなり目標値をオーバーした結果として実績は上がっているが、目標値に疑問が残る。目標値は、いつ決めたのか。現状の宿泊費も食費も上がっている経済の動向も含めた数字か確認したい。また、外国の方と日本の方の割合についてはどうか。外国の方のリピー率が多いはずはない。そこを踏まえ、アンケートを分けなければ、本当のことはわからないと思うが、どのような方法を取っているのか。それが大事だと考えるが、いかがなものか。

事務局：現行計画は、令和4年度からスタートしコロナ禍前に策定した計画で、アフターコロナという視点が目標値となっている。インバウンドがゼロになったところからの計画なので、どうしても現状に合っていない。現在は、状況が大きく変わっていると認識している。そこを踏まえ今後の計画を策定したいと考えている。

このアンケートはすべて日本人が対象。今後は、外国人の動向を考慮し、取り組んでいく。また現在試験的にインバウンドの方へのアンケートを実施している。まだ母数は少ないが、今後その結果を示していきたい。

D委員：外国人向けのアンケートは具体的にどのような方法で実施しているのか。

事務局：宿泊先や観光施設などにアンケートのカードを設置している。二次元コードを読み取り、Web上でのアンケート回答となるが、多くの協力を得ることは難しい。今後の本格的な調査は対面で行う。外国人が多く滞留している駅前、東口のバス停などを想定し、直接聞き取りをする予定である。

一方でマクロ的な大きな人の流れは、人流データを取得すべきと考えている。また国によってシーズンリティがあることも考慮しなければならない。毎年、観光庁の宿泊統計データを取得しているが、最新のデータでは1番はオーストラリア、2番が中国である。インバウンドと一括りにできない、この国は冬の来訪が多い、夏場はこの国が多い等、季節や時期によって需要や価格が変動することも見据えたプロモーションが非常に重要になると理解している。

色々と細分化し、次期観光振興計画に盛り込む必要があり、今後の計画策定に当たり、今年度、詳細に調査をすることが決定している。新たにインバウンドも対象とする。データが基本になるので、今の状況をしっかり捉え、調査を進めていきたい。

## (2) 観光施策の最近の取組状況について

A委員：ここ3年程、イルミネーション自体の経年劣化もあり、範囲を絞り、新田町交差点から末広町にかけては実施されていない。今の説明だと今年度は全域での開催という理解でよろしいか。

事務局：そうである。前回も新田町から駅前までは違う装飾で実施している。去年は光の色に変化を試みたが、想定した以上に光量が弱かった。様々なご指摘を受け、大門周辺の装飾を少しまばらにしても、今年度は駅前までの全域での実施を決定したしだいである。

K委員：そうなると大門周辺は光量を抑えるのか。

事務局：そこを今調整しているが、そこまで暗くなることはない。各商店街や関係者から全域をとの要望を受け、実行委員会で調整・検討し、延長しようという結論に至った。限られた予算の中で試行錯誤している。

イルミネーションは表参道の並木装飾と灯明まつりとのコラボレーションという形で実施している。並木の装飾は11月からと期間を長くしており、2月の灯明まつりの4日間は、イベントを開催する。このイベント費用を少し並木の装飾に回すことも考えているところだ。

K委員：一層の盛り上がりのため、光量は落とさず、全体で統一できることを期待する。

E委員：イルミネーションも開催8回目になるが、その効果、来訪者数、飲食店の売上増加に貢献できているか等、その支出面の影響についての数値は出ているのか。

事務局：イルミネーション開始時には大々的な調査をしていたが、ここ数年は数字での効果測定は実施していない。

E委員：えびす講花火大会で人流データを活用したが、アンケートよりは少し精度も高いと感じた。データを活用し、実際の店舗売上の伸びと人数を掛けると、全体の効果が少し見えてくる。これを毎回実施すると、市民にも効果について周知可能ではないか。

事務局：最近いろいろな施策をする中で、データの重要性は承知している。様々な面で取り入れていきたい。

F委員：白馬村との連携事業について。白馬はスキーシーズンに多くの外国人が訪れる。滞在期間も1週間程が多く、平日5日間はスキー、土日は観光という日程の中、長野市へと誘客するための具体的な取り組み内容を知りたい。

事務局：まず長野から白馬に帰るバスの便を冬季増便した。宿泊先の白馬に戻ることができる20時頃のバスがあると、長野で夕食など飲食店の利用増加につながる狙いである。また長野市の飲食店のバラエティーの豊富さ、対応・サービスのよさをPRする宣伝を白馬村で実施、インバウンド対応の上で、発見になるようなセミナーを長野市内の飲食店関係者を対象に行った。

F委員：白馬村の観光施設や宿泊施設など、ポイントに長野市の魅力を発信するパンフレットを設置するのはどうか。これにインバウンドが興味を示せば、自国に戻って周囲に伝える。所謂口コミはかなり影響があるのではないか。

事務局：昨年度から名刺サイズのカードを作成し、二次元コードから飲食店の情報を発信している。限定的ではあるが、白馬村の複数個所に設置のお願いをしている。

K委員：例えば志賀高原に来る方は宿泊するホテルで食事はしない。湯田中に行けば結構お

店があるからとバスで出掛ける。野沢温泉村には昔ながらの旅館が多く、基本1泊2食対応だが、多くの方が外に出る。結果、街中で飲食店が増えている。旅館業の傍ら、飲食店も始めるところも多く、村全体が生き生きしている感じを受ける。飲食店の情報をSNSで発信すれば人は集まる。先ほどの二次元コードは有効利用されるはずだ。

F委員：白馬の宿泊客もホテルや旅館で食べる方は少なく、自分達で村内のスーパーで買い物をして自炊をする。それに飽きると、他の町へ出向いても魅力的な食事を求める。

白馬長野間の交通が便利になり、より幅広く周知できれば、来訪者も多くなると思う。

G委員：白馬や野沢はインバウンドを受け入れる町の体制があるが、現状、戸隠は不十分である。宿が1泊2食付きにするのは、コンビニもなければ、数少ないお店も早々に閉じることが一因だが、どこまで理解されているは疑問。さらに連休などの繁忙期は、蕎麦店の多くが午後2時頃には売り切れ、店じまいする。朝打った蕎麦がなくなると、今までしていた追い打ちができない。雇用する従業員の多くが、時間制で働くので対応しきれず、人手不足を理由に苦渋の決断で店を閉めるしかないからだ。名物の戸隠蕎麦目当ての方にさえ、十分なおもてなしができない観光地となっている。

今年4月から、戸隠行きの観光特急バスが運行を開始した。全席ネット予約だが、長野駅に戻る最終が午後4時で、昨年と同様、乗り遅れる人が出ることが懸念される。そこで事前の対策を要望したい。例えば、観光特急バスを利用する多くのインバウンドに向け、バス乗車の1時間に啓蒙することはできないか。

戸隠地域の特性や鳥居の意味、参拝の作法の心得、ゴミは持ち帰るのがマナーであると教えるとともに、戸隠の冬の厳しさ、最終のバスに乗り遅れたら、当日泊まる宿も飲食店も無いことを事前周知して欲しい。特にゴミについては雪解け時、傘、かっぱ、使い捨てのアイゼンが点在する。各所設置の警告看板の効果は薄い。バスの中でビデオにより周知徹底することが、一番スマートな注意喚起になると提案する。

事務局：地元の貴重な意見である。戸隠高原交通渋滞対策協議会では今のご指摘、アイデアなどを含め、広く意見交換している。市としてできることは限られるが、各事業者、地元も含めて、何ができるのか一緒に考えていきたい。

K委員：その協議は、この冬には間に合うのか。

事務局：私ども行政と民間の営業方針もあり、いろいろ画策はしているが、実現までの話には至っていない。

K委員：企業は需要があれば前向きに検討する。ただ、どこも運転手不足の問題があるので難しいところである。

事務局：戸隠でのインバウンドのマナー問題については、長野エリア観光戦略研究委員会で独自のアカウントを持ち、SNSで発信することを検討している。インバウンドはシーズンリティがあるので、季節の傾向、国別の対応もしていきたい。具体的な進捗情報は今後報告する。

G委員：戸隠観光には登山もある。戸隠山、100名山の高妻山が目的のインバウンドが多い。

ひとつの事例を紹介すると、高妻山に登山するのにバスで来るが、そんなに簡単に登れる山ではないことを認識していない。案の定、帰りの最終バスに間に合わず、体調不良だと宿に助けを求める。長野駅前のホテルを予約・支払い済なので、どうしても帰りたいと主張するも、料金の高いタクシー利用は拒否され、もう疲れて歩きたくないから何とかならないかと訴える。結局その宿で宿泊を受け入れることになるが、最終バスが早すぎるのではないか。

K委員：早朝や深夜、夜遅い時間は運転手が確保できない。市街地でさえダイヤが成立しない。戸隠発の夜遅い便となると平日はもちろん、土日でさえも満席になるほどの需要は見込めない。

対策としては案内に尽きる。例えば地獄谷野猿公苑は地元が頑張っていて、至る所に外国語の看板を設置し、猿の生態、餌をやるな、歩くのはここと表示している。旅館でもお風呂でのマナーの指導を徹底した結果、浸透してきている。戸隠は急激にインバウンドが増加しているので悩みが多いのは理解するが、地道な啓蒙の継続が一番ではないか。

G委員：季節問わず無謀な登山をするインバウンドが増えてきたことを、この審議会に報告する。

### (3) 次期長野市観光振興計画の策定について

H委員：松本市は長野市と正反対でグリーンシーズンの来訪者が多く、逆に冬は宿泊客が少なく宿を閉めるという話を聞き驚いた。海外展開のプロモーションで松本市と連携をすることを機に、双方得手不得手を補う取り組みを要望する。

事務局：観光客対象のアンケートを実施する中で、長野と松本という回答が多い。今回しっかりと調査をし、訪問先の流れを把握したい。松本市ともお互いの強みや弱みを捉え、広域観光として具体的な施策に落とし込んでいくことで、来年度以降協力していきたい。

D委員：「D-2. 外国人旅行者に対する調査」（長野市観光の現状に対する調査 観光ニーズ分析）に白馬村滞在者含むとあるが、先ほど話題に出たのは、飲食関係だけである。せっかく白馬に滞在中、長野市へ来る方には、是非善光寺を訪れて欲しい。インバウンドに向け、参拝だけでなく、日本の文化を体験できる場があればと思うが、善光寺としてはいかがか。

I委員：海外の方の受け入れは、古風な面もあり遅れている部分もある。ただ、デジタルサイネージでのインバウンド向け案内、或いは、長野市制作のスマホアプリ（ONE THE TRIP Audio Guide）が活用されているのを見かける。知っている方は便利に利用しているが、周知は必ずしも行き届いていないので、もう少し目立つ場所で案内をしていきたい。冬季は16時に本堂を閉めるが、15時過ぎにスノーモンキーを楽しんだ海外の方がどっと訪れる場面も多い。現実的に参拝時間を延ばすことは難しい問題であ

るが、その時間に海外の方に向け案内ができる体制も必要になってきている。実は善光寺のガイドは諸問題があり限定している。面白おかしくウケ狙いの案内をされると、根幹にある信仰を捻じ曲げられることになるため、宿坊で案内する人達でさえ必ず試験を受けている。海外向けのガイドは「梵鐘の会」がボランティアで行っているが、善光寺も参加する勉強会を月2回開催し、正しい知識を習得している。需要がある以上、そこに対応したいという考えは常に持っている。

D委員：インバウンドのお賽銭は日本のお金ではないのではないか。

I委員：日本のお金ではない。両替ができるのは紙幣のみなので大変ではある。他の神社仏閣では、お賽銭もPayPay等電子マネー支払いに移行しているところもある。

令和9年の御開帳に向け、朱印と法要受付場所の工事をしている。列に並ぶ待ち時間の削減になればいいと考える。また、最低賃金の上昇により商品価格も上がる、そことうまくリンクした目標値に変動性が取れるようになるといい。

1つ安心できるのは、来訪者数は確実にアップしている点。ただ先ほどの統計資料によると、ハイシーズン11月に善光寺を訪れた方の満足度が低いことは課題である。昨年の11月は土日に必ず雨が降っていたことが原因のひとつとして思い当たるが、観光にとって来訪者が最大の広報人であると考え。満足度を上げることは、その人自身のリピートにつながる上に「よかった、また行きたい」という口コミは周りに一番伝わる宣伝効果でもあることを肝に銘じたい。

K委員：善光寺も仲見世も、少なくとも夜8時頃までは開店をとの要望が常にある。お店が早々に閉まると町もヒンヤリする。そのため、夜の来訪者の満足度は見込めない。

I委員：年に20日間だけ行われる「十夜会」は夜7時からだが、仲見世の8割程閉まっている。仲見世の元善町商盛会の協力もあり、灯明をずらっと参道に並べてお客様の出迎えや、営業時間を延長する店も大分増えてはいるが、まだ微力である。

K委員：えびす講の花火も、花街の女性達が発端で、1夜限りでもその日は泊まって欲しいが前提だった。難しいことは承知しているが、夜を楽しめる行事が目白押しになると宿の手配がセットになる。もう少し各所頑張って夜も何かできないかと期待する。

A委員：今、善光寺を世界遺産にとの取り組みが行われている。この取り組みは、善光寺だけではなく商工会議所など様々なところが協賛し、市役所の受付にものぼり旗があった。今年、長野駅前交差点から善光寺交差点の区間（約1.5km）の道路の愛称名が「善光寺表参道」に決定した。

長く長野中央通りとして地元に親しまれたが、今までの通称から、公式に善光寺表参道となった。この善光寺表参道の街路樹に10月に入ってから、「善光寺を世界遺産に」と掲げたのぼり旗が、何十本と中途半端な間隔で、ビニール紐でくくりつけられているのを見て複雑な気持ちになった。ここ3年、新田町から末広町の間は街路樹を煌びやかに飾ることもなく、冬の町を暗い印象としたことも同様である。長野市の玄関から善光寺へ繋がるメイン通りとして、再度、景観も含めた意識の見直しを観光振

興課から発信できないか。

また、新田町から末広町の間は整備後、おそらく30年以上経過している。

特に新田町周辺の舗道はタイル張りで、調べると250枚以上のタイルが壊れている。破損箇所を見つけ市民が維持課に報告すると対応はする。ただアスファルトで補強するので、白いタイルが割れたら黒いアスファルトになり、オセロゲームのような箇所が増える、広範囲で舗道は荒れており、見た目も悪い。さらにこの道を通る多くのインバウンドは、ほぼキャリーケースを利用している。整備不十分な歩道の上を朝方ガタガタと引きずり歩くせいで、キャストが壊れ、外れたゴムが毎日のように落ちている。つまりインバウンドの多さもこれだけ多くのキャリーケースの利用も、当時の中央通りの整備の想定を超え、長年放置されていることになる。

ウォーカブルなまちづくりは観光誘客の足掛かり。のぼり旗についても、ファストフードや居酒屋が、無秩序に通りにのぼり旗を出した際、町の役員などが一軒一軒、道路交通法も絡め、撤去のお願いをしてきている。

善光寺が世界遺産になれば、白馬を訪問する外国の方を含め多くの観光客に長野市をPRできるなど、メリットが多いのは間違いない。実現に向け多くの地元支持を受けるためにも、善光寺の枠を超え、まず全域で世界遺産として価値のある善光寺とするため、景観などの意識も観光目線で持ち、長野市が主導するべきではないか。

I 委員：世界遺産に向けての強化月間として、10月に入ってから商工会議所が中心となり、長野市協力のもと「善光寺を世界遺産に」と掲げたのぼり旗を全部で130本分設置している。ただ街路樹にくくりつけていることは初めて知った。街灯につけている認識であった。ビニール紐自体はもちろん、垂れ下がるなど景観的によろしくないことは同感である。通行する方に好印象を与え、景観には十分配慮し設置をしなければ意味がない。また、商店会がチェーン店ののぼり旗の排除に尽力された過去も今知った。次回の会議で、しっかり情報共有をしたいと思う。

D 委員：善光寺の世界遺産登録をすすめる会に関わっている者として、駅前や仲見世に立つ多くののぼり旗を単純に嬉しいと感じていた。実現に向け市民からの盛り上がりを期待する一方、市民がよく思っていない点がある限り、世界遺産への道は遠いと感じる。今日貴重な地元の意見を聞くことができ、善光寺とも情報共有できたことは、この審議会が有意義であったと思う。

A 委員：松代について意見したい。今年の春に信毎で松代駅の解体が報道され、議論を呼んでいる。それ以降地元の若い方を中心に、かつてもあった保存運動が再燃し、署名を集め提出するという流れがある。観光課の資料では、松代だけはリピーター数が下がっている。

今年実施した企画が江戸時代・真田家関連の武家屋敷や寺社などを利用し、貴重な体験をする富裕層向けの観光プロモーションは、広く誰もが松代を選んで足を運ぶ、訪れて楽しむという観光の基本としては足りないのではないか。SNSで長野市松代と



検索すると、何よりも松代駅解体が上位にあり、春以降、報道を見たのか駅舎の写真がアップされていることが多い。

松代の町は武家屋敷周辺を中心に、お金をかけ整備され、街並みは綺麗だが、実際歩いてみると平日だけでなく、土日でも人とすれ違わない。特に旧松代駅周辺は、電車が廃線になったことで空洞化が生まれた。

松代の中心地に住民も行く理由が無くなり、買い物は車で少し外れた店舗や橋を越えて南長野まで出掛けている。そもそも住民の生活が松代の町に根付いていないのでないか。そうなる解体うんぬんより、松代の中心地をどうするかが重要になる。住民自治協議会で行っているのは、とにかく道を通すことがメインだが、再生ではなく、交通が便利になると素通りされ、居抜きの古い町が残り放置されることを懸念する。今のまま、インバウンド向けに武士をイメージする写真をHPに貼るだけでは、松代に行こうという気にならない、やるべきことはそこではない。集計データの充実や施設の整備より、むしろ人が行き交う賑やかな町で、その中を歩くことが楽しい、ここを松代は考えなければいけないと思う。

J 委員：松代に関して今の指摘はもっともである。

また、駅舎を保存するには屋根の修理や耐震補強の費用が必要になる。松代のゲートウェイとして広い大きなロータリーをとの計画があり、商工会議所からの地元で決めるようにとの要望に沿い、住民自治協議会で進めている。

A 委員：それは今までの経緯である。この半年状況が変わってきていることは、駅舎存続の書面が出ていることなども含め、地元は当然知っているのではないか。

J 委員：一部の人が駅舎を残して欲しいと動いているようだ。

A 委員：決して保存しろと言っているのではない。旧松代駅はバスの発着場所で、駅舎も待合室として使用されている。2012年に屋代線が廃止になってから、結局何もしていないことが事実である。結果、駅舎周辺には町の人さえ行かなくなり、松代が人とすれ違うことも無いほど閑散とした町になっている。今後、ロータリーが整備されても、今と同じ機能では意味がなく、松代は長野インターから近く、地の利を最大限に活用すべきではないかと。もともとの駅だった訳だから、例えば「道の駅」として観光客も住民も買い物ができるスポットにする、隣の城址公園を広げ、多くの人が集まる場所にする。車で訪れるには最適な地であることに、もっと注目したい。もちろん受け皿となる駐車場を始め、諸々問題もあるのは承知の上で、ただロータリーだけでなく、プラスαの発想が松代の今後のためには必要だと考えるがいかがが。

J 委員：大変ありがたい提案だが、駅舎は地元の住民自治協議会主導で話を進めている。観光客も利用するバス停の待合室を可愛くこじんまりとしてはどうかと案も出ているようだ。自治協が熟考し、よりよい松代を目指し検討している。観光協会として意見はできるが、決定権はあくまでも自治協である。

K委員：全国各地に城下町はたくさんある。仙台は殿様の町で参勤交代の際連れてきた店が多く、今でもそれなりに生きている。地元住民は家族で割烹に月に何回か行き、料理を愛でて、味わう文化がある、それがDNAである。金沢も昔ながらの金箔作業が続き、料理屋も根づいている。松本市もそうである。江戸時代から続く鰻の老舗は、今も流っているし、市民一丸となって綺麗な町づくりに取り組む、これもDNAだと思う。ただ、残念ながら今の松代は住んでいる方に城下町としての思いが薄いと感じてしまう。上田が本拠といわれると困るが、真田の殿様が愛した菓子でも料理でもいいのではないか。小布施では高井鴻山が江戸と行き来して築いた文化・芸術を活かした町づくりをやろうとしている。松代は真田家から受け継がれるDNAはないのかもと残念に思う。だが自治協の決定事項であれば、それも理解しなければならない。

事務局：市としては観光部門というより交通部門になるが、今まだ、今回の駅舎の関係で住民をはじめ各方面から丁寧に話を聞いている最中である。もう1点、松代自体の町づくりの部分、これも観光だけの話ではないが、松代にある市有施設の利活用を含めての町づくりという意味で、サウンディング調査を始めている。松代について未来の青写真を描く上で、松代全体をどうするべきかにも手をつけている。

K委員：基本は、住んでいる人たちが愛でるような場所に魅力があり、そこに外から多くの人が訪れることが理想である。

D委員：駅舎をどうするのかという会議にも出てるので一言。

長野市歴史的風致維持向上協議会で、前回、その件が議論になった。現在は、結論に至らず、長野市と地元住民で討議の最中ということを知ることができた。実際に現場に赴き、松代のことを考えた意見は非常に大事である。同じ市内で生活しているのに傍観者でいてはいけないのではないかな。

A委員：住民自治協は、長野市独自の自治の形で結構珍しい。松代は、あのエリアに住んでいるのは1万6000人で、小布施町より人口が多い。自治協に選挙は無い。基本的には、町の有志、長老が決定し、町全体の声とされる。そこにも問題がある。町に選ばれた人でないから、若い人の声は届きにくい構造になっている。この人口規模であれば単独の一つの町であってもいい程だが、今の自治協を住民の代表として最優先することを持続すると今回の二の舞である。これを前提に今回吸い上げられなかった「声」が、この瀬戸際で出てきたことは、構造上の問題もあるのではないかな。観光だけでは救えないが、今まで通り松代イコール真田家、サムライ的な部分だけを押すのは限界である、費用も時間もかけた分だけビルドアップしていかなければならない。

同じような条件で、静岡に天竜二俣駅がある。徳川家康ゆかりの地で山間の奥地であるが、鉄道があり、シンプルな切り妻屋根で平屋建ての木造駅舎が今も使用されている。歴史と駅がセットで観光PRしていたが、旧商店街は荒廃していたと聞く。そこが「シン・エヴァンゲリオン劇場版」の「第3村」のモデル地となり様変わりした。天竜二俣駅を拠点に交通の便として駅を利用しつつ、駐車場を整備、マルシェを起こ

した。まず浜松など近場から人を呼び込み、一定数集客できるとテナントにどんどん店も入り、集まる人も増えるという循環で、今盛り上がりを見せている。松代と似た環境の成功例として参考にする価値はあると思う。

J 委員：小布施と比べると何倍も松代の方が観光資源を持っている。ただ、小布施は栗を中心とした食事処や土産店が充実し、町の真ん中にドンとある。観光するエリアもコンパクトで巡りやすく、団体バスで行っても30分から1時間ぐらいで食を楽しみながら、ぐるぐると回れる範囲内である。松代は観光名所がいっぱいある割には山際に点在している。滞在時間が短い中、年配者が歩いて巡るには厳しいと言わざるを得ない。一番残念なのは、食事場所が非常に少なく、魅力的な土産がないことである。地元ならではの杏、長芋料理と趣向を凝らしてみるが、集客の決め手には程遠い。

K 委員：真田家は上田が本拠地で、松代は別邸という意識がどこかである。だから昔から町が形成されていなかったのではないかと。多分、町づくりができていれば、「お殿様がうまいと言ったから、みんなで食おう。」と住民はそこを利用するはずである。

B 委員：全国にはインバウンドが集まる拠点となる観光地がいくつもある。3大都市圏以外にもインバウンドの選択肢として選ばれる都市がいくつかある。

例えば、金沢、広島。長野市が全世界のインバウンドから、日本へ行くなら長野市と選ばれるといい。そこが一番の思いである。インバウンドの求めるものが「見る・食べる」から「体験する」に、その次に何が来るかとなると、日本を奥深く知りたい、日本人の心を知りたいに辿り着き、そこには長野市があるという売り方をしたい。戸隠、善光寺、松代は神と仏と武士。この3つは日本人の心をつくる大きな要素であり、長野市内で1度に体験できるのが強みで、他都市にはない。神と仏と武士の道をターゲットのニーズに合わせた訴求ポイントとしてアピールしていくべきではないか。日本の心を知る旅に最適な場所として連携し、魅力づくりの体系を作った上で、アジアやヨーロッパへ積極的なセールス展開を目指し、ぜひインバウンドを呼び込んで欲しい。今後、長野市の観光を考えたときに大きな要素になるはずである。

## 5 その他

事務局：事務局から2点。まず宿泊税の関係である。こちらは県が導入する施策で、施行期日は令和8年6月1日となる。県が徴収し、各市町村に分配されるが、観光資源の充実、旅行者の受入環境の整備を前提に、使途について検討していきたい。

もう1点は委員の任期である。現在、委員の任期は令和8年5月31日までとなっている。委員の改正に当たり、各団体に委員の推薦のお願いをするのでご承知いただきたい。また、公募の委員は、次回も公募による選定となること承知して欲しい。

## 6 閉 会